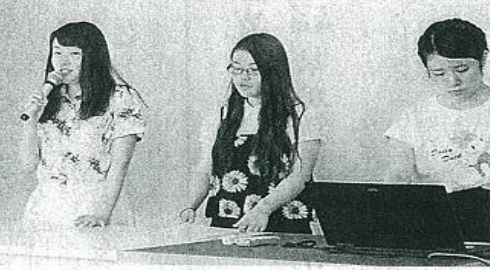


学生目線のアイデア提案

スイーツ新商品や観光ツアー 県立大松江で審査会



審査会で企画内容への思いを語る学生

県立大短期大学部(松江)の公開審査会(市浜乃木7丁目)が学生を対象に募集した「キラキラプロジェクト」のおこし活動に経済的支援を

行うことで、授業では得られない企画力、実践力を磨いてもらおうと昨年度に続いて開き、5団体が若い目線で地域を盛り上げる企画を発表した。

2企画を選ぶ「キラキラ枠」(上限費用10万円)に3団体、1企画を選ぶ「ドリーム枠」(同30万円)には2団体がエントリーした。

このうちキラキラ枠に応募した団体は、小泉八雲の「怪談」をヒントに新たな土産品・怪談スイーツを開発するプロジェクトを発表。耳なし芳一の耳を模したまんじゅうなどを商品化する計画を説明した。ドリーム枠では、松江市

立女子高時代に出場した観光甲子園で全国制覇した経験のある3人が、気象庁のデータなどを示し、山陰両県で霧の発生率が最も高い松江の霧に着目した観光ツアーを提案した。大学関係者3人と民間企

業役員2人の審査委員が各団体200点満点で採点し、ドリーム枠には霧の観光ツアーを採択した。審査委員の玉造温泉まちデコ(松江市)社長の角幸治さんは「レベルの高いプレゼンに驚いた。社会

に出てからも大きな財産になる」と太鼓判。メディアスコープ(同)社長の中尾禎仁さんは「アイデアが素晴らしい」と講評した。年明けには活動報告会を開く予定。

ギリシャに八雲資料館

～没後110年記念行事～

生誕地の島 小泉八雲の凡さんら出席し式典

明治の文豪・小泉八雲（シラカディオ・ハーン、1850～1904年）の没後110年記念イベントが4日、生誕地のギリシャ・レフカダ島で始まった。島内の文化センターには、

八雲の作品や写真を展示した資料館もオープン。松江の市在住の八雲のひ孫・小泉凡さん、島根県立短期大学短期大学教授らも出席し、式典が行われた。資料館では、ギリシャの研究者が集めた八雲の著書などを紹介。怪談「耳なし



ギリシャ・レフカダ島で、小泉八雲の資料館のオープンを祝いテープカットをする小泉凡さん（右）と西林万寿夫駐ギリシャ大使（中央）ら4日（共同）

らいたい」とあいさつ。西松江市出身の俳優、佐野史郎さんとギタリストの山本恭司さんによる朗読会や、熊本県の清和文楽の公演などが行われる。

八雲の故郷で朗読ライブ

没後110年 記念行事 佐野史郎、山本恭司さん

ギリシャ・
レフカダ島

「魅力の深さを伝えたい」



小泉八雲の生誕地ギリシャ・レフカダ島で朗読ライブを行う佐野史郎さん(左)と山本恭司さん=5日(共同)



八雲の没後110年記念イベントの一環で、島内の野外ステージで開かれた。八雲が残した言葉や母への思いをレフカダ島に届けた。今後も魅力の深さを伝えていきたい」と述べた。

クリーンに映し出された。一般に「八雲」と名付けたほどの大ファンの佐野さんは、2006年から八雲の「怪談」などを朗読する活動を開始。同級生の山本さんも加わり日本全国で公演を行っている。

「八雲が『へるんさん』として親しまれ、松江を愛したことは小学生ぐらいから記憶に染みついている。作品を読むと自由で縛られない、ロックでポップな、ユーモアのセンスもある人と感じる」と佐野さん。

2人がレフカダ島を訪れたのは初めて。山本さんは

明治の作家小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の生誕地であるギリシャ・レフカダ島で5日、八雲が暮らした松江出身の俳優佐野史郎さんと、ギタリスト山本恭司さんが八雲作品の朗読ライブを行った。観光から大きな拍手を受けた2人は「八雲が暮らした松江」市民にとって八雲は身近な存在。

「夕日を見て、松江の六道湖の夕日と重なった。八雲も六道湖を、記憶にあるレフカダの風景と重ねていたのでは」と話した。

この日は、八雲のひ孫で松江在住の小泉凡さんやギリシャの研究者らが参加し、八雲の「オープンマイ

ンド(開かれた精神)」をテーマにシンポジウムも開催された。

シンポジウム後、凡さんは「八雲はオープンマインドだから物事の本質を見ることができた。現代社会にもそういう見方が必要だ」と語った。

県立大学四年制化 島根県に検討要望

島根県立大学（浜田市野原町、本田雄一理事長）は17日、松江市浜乃木7丁目の短期大学部（松江キャンパス）の全3学科の四年制化や、健康栄養学科の出雲キャンパスへの移転を盛り込んだ大学案の検討を県に要望した。県は有識者会議を立ち上げ、方向性を議論する。

松江キャンパスは2年制の健康栄養、保育、総合文化の3学科がある。県立大は昨年4月、入学志願者が



島根県立大短期大学部の四大化を溝口善兵衛知事（左）に要望する本田雄一理事長（右）
松江市殿町、県庁

減少傾向にあることや、公立短大の四年制移行が全国で相次いでいることを踏まえ、四年制化の方向性を示

し検討を進めていた。案の内容は、健康栄養学科を出雲キャンパス（出雲市西林木町）の現看護学部と統合し「看護栄養学部」として新設▽保育学科を「保育教育学科」、総合文化学科を「地域文化学科」として再編▽松江キャンパスに「人間科学部」を新設

「してほしい」と伝えた。溝口知事は「大事な課題だ。県としていろいろな人や議会の意見を聞き、返答したい。1年くらいは時間がかかるかもしれない」とした。県は近く、教育、経済界や栄養士、保育士ら有識者でつくる会議を立ち上げ、議論を進めることになっている。

この日は本田理事長や短期大学部の山下由紀恵副学長らが溝口善兵衛知事を訪ね、本田理事長が「県民や関係者におおむね理解をいただいた」と説明。大学案を手渡し「速やかに検討

平成 26 年 7 月 18 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

学生らが学科紹介ブース 島根県立大学 オープンキャンパス



高校生（左）に松江キャンパスの魅力をアピールする学生

県立大学短期大学部松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）はこのほど、同校でオープンキャンパスを開いた。県内外の高校生や保護者約500人が訪れ、学生との交流を通して進路選択の参考にした。

このうち、保育学科のブースでは、学生が絵本の読み聞かせをする授業風景の映像を使って説明。「みんな仲が良く、とてもにぎやかなキャンパスです」などと呼び掛けた。

参加した吉賀高3年、瀧口星さん（17）は「明るく、とても雰囲気の良いキャンパスだと思った」と話した。

平成 26 年 7 月 24 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報